

平成23年度 地域の未来図作成事業
県内中山間集落における農業生産基盤の実態と
「地域貢献型集落営農」導入に係る調査

徳島県内における
中山間地域農業の実態アンケート

調 査 結 果

平成24年3月

徳島県 農林水産部 農村農地政策局 農地計画課
徳島県立農林水産総合技術支援センター

目 次

	ページ
I アンケート調査の目的	1
II 方法	1～2
III 各設問のねらいとその結果および考察	3～43
「徳島県内における中山間地域農業の実態アンケート」調査票	44～59

I アンケート調査の目的

我が県における農業就業人口は、2010年農林業センサスでは38,315人であり、2005年と比較すると、5,457人（12.5%）の減少となった。また、農業従事者の平均年齢は65.9歳であり、2005年の63.9歳よりも2歳高齢になっている。

様々な場面で「農村は担い手不足と高齢化の進展が深刻化している」と述べられるが、その状況は近年加速化され、それを食い止める対策は真に待ったなしの状況となっている。

特に中山間地域においてはその傾向が強く、県内における平成22年度中山間地域等直接支払事業の協定集落数は、平成21年度と比較すると117協定減少している。

他方、本県同様に中山間地域の過疎高齢化が深刻化する島根県では、近年「地域貢献型集落営農」という地域営農システムにより、営農を核として生活支援や環境保全をも取り込んだ地域公益的な集落組織の育成がおこなわれている。

そこで、本県においても「地域貢献型集落営農」のシステム構築と導入が可能であるか、中山間地域における広義的な農業生産基盤に関するアンケート調査を行い、その可能性と課題を探る。

II 方法

中山間直接支払事業実施市町村（17市町村）のうち、集落代表者のリスト提供等アンケート調査に協力を得た市町村（14市町村）の協定集落代表者を対象に「徳島県内における中山間地域農業の実態アンケート」調査票を郵送した。

調査票の回収も郵送（送付時同封の返信用封筒を使用）にて行った。

詳細については、次の表1から表3のとおりである。

表1 調査票の配布と回収

調査票配布時期	平成23年12月15日～平成24年1月11日までに発送（郵送） （市町村により発送日が異なる）
調査票回収期限	ポスト投函を平成24年2月2日の期日とした

表2 アンケート調査対象者数（調査票配布数）と回収数および回収率

市町村名	アンケート調査対象者数（調査票配布数）	回収数（票）	回収率（%）
徳島市	5	5	100
小松島市	8	5	62.5
上勝町	32	24	75.0
佐那河内村	21	17	81.0
神山町	22	14	63.6
吉野川市	20	15	75.0
阿波市	24	19	79.2
那賀町	118	90	76.3
美波町	30	21	70.0
海陽町	12	9	75.0
美馬市	53	47	88.7
つるぎ町	54	40	74.1
三好市	61	50	82.0
東みよし町	25	20	80.0
合計	485	376	77.5

なお、回収した調査票に市町村の記述がないものは無効とした。

表3 アンケート調査の質問事項の概要

質問事項の概要		問数
1	戸数、年齢構成、担い手農家の存在、跡継ぎの存在等、集落の人に関する質問	6
2	耕作放棄地面積、耕作者、農作業受託等、集落の農地の利用状況についての質問	14
3	栽培品目、出荷先、農機の利用状況、野生鳥獣被害等、集落の農業経営に関する質問	12
4	集落営農のイメージ、推進の課題、講習会開催の必要性等、集落営農組織化の意識に関する質問	8
5	祭事や共同活動の状況、UIターン移住者の状況、役場や県に対する意見等、集落活動の質問や意見	9
合計		49

Ⅲ 各設問のねらいとその結果および考察

◎ アンケート回答者の平均年齢は65.6歳（最若齢41歳、最高齢92歳）であった。

「問1ー」の設問とそのねらい

- ◆ 問1については、集落の「戸数や人」に関することについての質問で構成している。また、集落内農家戸数やその年齢比率、跡継ぎの存在等の設問もある。
- ◆ このセクションでは、中山間地域の集落の年齢構成等を把握する。

問 1 - 1	あなたの集落の全戸数は何戸ですか。
---------	-------------------

◇ 結果 ◇ 表1 集落内の戸数

合計戸数（戸）	8,739
1集落あたり戸数（戸）	23.6

有効回答数	371
有効回答率（%）	98.7

問 1 - 2	あなたの集落の年齢構成を教えてください。
----------------	-----------------------------

◇ 結果 ◇ 表 2 集落の年齢構成

年齢区分	人数 (人)	割合 (%)
小学生以下	459	2.7
小学生	632	3.7
中学生	384	2.2
中学卒業～19歳以下	404	2.4
20歳代	685	4.0
30歳代	969	5.7
40歳代	1,182	6.9
50歳代	2,503	14.7
60歳代	3,155	18.5
70歳代	3,599	21.1
80歳以上	3,097	18.1
合計	17,069	

有効回答数	368
有効回答率 (%)	96.8

60歳以上の割合を合計すると57.7%となる。

問 1 - 3	あなたの集落の全戸中、農家は何戸ですか。
----------------	-----------------------------

◇ 結果 ◇ 表 3 集落内の農家戸数

合計戸数 (戸)	5,997	有効回答数	368
1集落あたり戸数 (戸)	16.2	有効回答率 (%)	96.8

アンケートの回答があった1集落あたりの農家戸数は16.2戸であり、集落の68.8%にあたる家が農業に従事している。

問 1 - 4	「問1-3」の回答のうち、農業だけで生計をたてている「 専業農家 」は何戸ですか。
---------	--

◇ 結果 ◇ 表 4 集落内の専業農家戸数

合計戸数 (戸)	1,692	有効回答数	371
1集落あたり戸数 (戸)	4.6	有効回答率 (%)	98.7

アンケートの回答があった1集落あたりの専業戸数は4.6戸であり、集落内農家戸数の28.2%にあたる。

問 1 - 5	「問1-3」の回答である「 農家 」の「 主たる経営主 」の年齢構成を教えてください。
---------	---

◇ 結果 ◇ 表 5 農家の「主たる経営主」の年齢構成

年齢区分	専業農家 (戸)	兼業農家 (戸)	総農家数 (戸)	専業農家内に占める割合 (%)	兼業農家内に占める割合 (%)	総農家数に占める割合 (%)
20歳代	4	15	19	0.2	0.4	0.3
30歳代	19	66	85	1.1	1.6	0.5
40歳代	51	167	218	3.0	4.0	3.7
50歳代	161	798	959	9.6	19.1	16.4
60歳代	441	1,159	1,600	26.3	27.8	27.4
70歳代	681	1,292	1,973	40.7	31.0	33.8
80歳以上	318	672	990	19.0	16.1	16.9
合計	1,675	4,169	5,844			

有効回答数	353
有効回答率 (%)	93.9

専業農家の60歳以上の割合を合計すると86.0%となる。また、全体でも60歳以上の割合は78.1%とかなり高い。

問 1 - 6

「問1-3」の回答のうち、跡継ぎが同居しているお宅は何戸ですか。

◇ 結果 ◇ 表6 農家の跡継ぎの同居

合計戸数 (戸)	1,207	有効回答数	371
1集落あたり戸数 (戸)	3.2	有効回答率 (%)	98.7

アンケートの回答があった集落内農家のうち、「跡継ぎがいる戸数」は1集落あたり3.2戸であり、その割合は20.1%であった。

「問1-」のまとめと考察

- ◎ 中山間集落では、60歳以上の方が過半を占める。一方で、30歳代と20歳代を合わせても10%程度の比率であり、集落全体の後継者がほぼいない状況と言っても過言ではない。
- ◎ 中山間集落では、総戸数中農家の占める割合が68.8%と高く、改めて地域を支える産業が農業であることがわかる。専業農家率は28.2%であり、2010年世界農林業センサスの「販売農家数に占める専業農家の構成割合」32.6%を若干下回っている。
- ◎ 専業農家の年齢構成を見ると、60歳以上の占める割合が86%と非常に大きい上に、60歳代と50歳代との間の開きが16.7ポイントと大きい。
また、集落内の農家のうち、跡継ぎがいる割合は20.1%と低い。
- ◆ 以上より、中山間を支える防波堤となっているのは、いわゆる団塊の世代であり、この世代がリタイヤするまでの間に、早急な対策が必要である。

「問2-1」の設問とそのねらい

- ◆ 問2については、集落協定の状況や耕作放棄地面積、耕作者、農作業受託等についての設問としている。
- ◆ このセクションでは、中山間地域の農地の利用状況等を把握する。

問 2 - 1 **あなたの集落は今現在、中山間直接支払い協定を締結していますか。**

◇ 結果 ◇ 表7 中山間地域等直接支払事業における現在の協定状況

回答区分	回答数	割合 (%)
協定を締結している	376	100
協定を締結していない	0	0
無回答	0	0
合計	376	

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

調査対象者が中山間地域等直接支払事業協定集落代表者であることから、全てが「締結している」との回答であった。

問 2 - 2 **「問2-1」で「協定を締結している」と回答した方に質問します。5年後も協定を締結していると思いますか。**

◇ 結果 ◇ 表8 5年後の協定締結について

回答区分	回答数	割合 (%)
協定を締結している	254	67.6
協定を締結していない	122	32.4
無回答	0	0
合計	376	

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

32.4%の集落代表者が、5年後の集落協定締結維持に自信がない。

問 2 - 3	「問2-2」で「協定を締結していない」と回答した方に質問します。 5年後の協定を締結できないと思う主な理由は何ですか。
----------------	--

◇ 結果 ◇ 表9 5年後の協定締結が維持できない理由

理由	回答数	割合 (%)
集落の高齢化により、耕作が維持できない	86	70.5
鳥獣被害により、営農が継続できない	21	17.2
集落の合意をまとめきれない	5	4.1
世話役の負担が大きい	10	8.2
無回答	0	0
合計	122	

有効回答数	122
有効回答率 (%)	100

高齢化により、耕作が維持できないとの理由が70%を越えた。

問 2 - 4	あなたの集落に1年以上耕作されていない、いわゆる「耕作放棄地」(1年以上収穫作業を行っていない「荒廃果樹園」や「茶園」も含まれます)はありますか。
----------------	--

◇ 結果 ◇ 表10 集落内の耕作放棄地の有無

回答区分	回答数	割合 (%)
耕作放棄地がある	267	71.0
耕作放棄地はない	109	29.0
無回答	0	0
合計	376	

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

70%を越える集落で耕作放棄地が存在する。

問 2 - 5	「問2-4」の回答が「ある」だった方に質問します。 集落に耕作放棄地はどれくらいありますか。
---------	---

◇ 結果 ◇ 表11 集落内の耕作放棄地の面積

回答があった集落全部の耕作放棄地面積（合算）	383.3ha
耕作放棄地がある1集落あたりの耕作放棄地面積	1.44ha

有効回答数	267
有効回答率（%）	100

問 2 - 6	「問2-5」の回答うち、荒廃果樹園・茶園はどれくらいありますか。 また、その品目は何ですか。
---------	---

◇ 結果 ◇ 表12 集落内の耕作放棄地のうち、果樹園・茶園の面積および割合

果樹園・茶園の耕作放棄地面積〈合算〉	114.5ha
果樹園・茶園の耕作放棄地がある集落数	151集落
果樹園・茶園の耕作放棄地が耕作放棄地全体に占める割合	29.9%
果樹園・茶園の耕作放棄地がある 1集落あたりの耕作放棄地面積	0.76ha

表13 耕作放棄地となった元の品目（果樹・茶に限る）

品目名	回答数〈複数回答〉
カンキツ類	68
茶	51
ウメ	21
カキ	14
クリ	13
その他果樹	5
品目不明	24

有効回答数	164
有効回答率（%）	61.4

果樹園・茶園で耕作放棄地となった品目は、カンキツ類が1番多く、2番目が茶、3番目にウメと続く。

問 2 - 7	「問2-5」の回答のうち、現在集落には居住していない方が所有する、いわゆる「不在村地主」による耕作放棄地はどれくらいありますか。
---------	--

◇ 結果 ◇ 表14 集落内の耕作放棄地のうち、不在村地主の面積および割合

不在村地主の耕作放棄地面積<合算>	129.4ha
不在村地主の耕作放棄地がある集落数	172集落
不在村地主の耕作放棄地が耕作放棄地全体に占める割合	33.8%
不在村地主の耕作放棄地がある1集落あたりの耕作放棄地面積	0.75ha

有効回答数	198
有効回答率 (%)	74.2

問 2 - 8	集落外から農地を借りて耕作に来ている人はいますか。
---------	---------------------------

◇ 結果 ◇ 表15 集落外の方による農地の借り受けの有無

回答区分	回答数	割合 (%)
借り受けがある	95	25.3
借り受けはない	281	74.7
無回答	0	0
合計	376	

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

25.3% (95集落) で集落外の方による農地の借り受けがある。

問 2 - 9	「問2-8」の回答が「いる」だった方に質問します。 集落外からは何人の方がどのくらいの農地を耕作していますか。
----------------	--

◇ 結果 ◇ 表16 集落外の方による農地の借受けの状況

集落外からの農地の借受け人数<合算>	237人
集落外からの農地の借受けがある集落の 1集落あたりの借受け人数	2.5人
集落外の方が農地を借受けている面積<合算>	61.9ha
集落外からの農地の借受けがある集落の 1集落あたりの借受け面積	0.65ha

有効回答数	95
有効回答率 (%)	100

問 2 - 10	現在は集落外に居住しているが、かつて集落で暮らしていた方で、耕作に来ている人はいますか。
-----------------	---

◇ 結果 ◇ 表17 集落にかつて居住していた方の耕作の有無

回答区分	回答数	割合 (%)
耕作がある	106	28.2
耕作はない	270	71.8
無回答	0	0
合計	376	

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

28.2% (106集落) でかつて集落で暮らしていた方の通作がある。

問 2 - 11	問2-10」の回答が「いる」だった方に質問します。 現在、かつて暮らしていた何人の方がどのくらいの農地を耕作していますか。
----------	--

◇ 結果 ◇ 表18 集落にかつて居住していた方の耕作の状況

集落にかつて居住していた耕作者数<合算>	218人
集落にかつて居住していた耕作者がある集落の 1集落あたりの耕作者数	2.1人
集落にかつて居住していた者が耕作している面積<合算>	51.6ha
集落にかつて居住していた者が耕作する1集落あたりの面積	0.49ha

有効回答数	106
有効回答率 (%)	100

問 2 - 12	集落外から作業受託(ファームサービス)に来ている人はいますか。
----------	---------------------------------

◇ 結果 ◇ 表19 作業受託 (ファームサービス) の有無

回答区分	回答数	割合 (%)
作業受託がある	89	23.7
作業受託はない	287	76.3
無回答	0	0
合計	376	

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

23.7% (89集落) で集落外からのファームサービスがある。

問 2 - 13	「問2-12」の回答が「いる」だった方に質問します。 集落外からは、何人の方がどのくらいの農地の作業を受託していますか。
----------	---

◇ 結果 ◇ 表20 作業受託状況

作業受託者数<合算、延べ人数>	243人
作業受託が入っている集落の1集落あたりの受託者数	2.7人
作業受託面積<合算>	91.0ha
作業受託が入っている集落の1集落あたりの受託面積	1.02ha

有効回答数	89
有効回答率 (%)	100

問 2 - 14	「問2-12」の回答が「いる」だった方に質問します。作業受託内容は何ですか。
----------	--

◇ 結果 ◇ 表21 作業受託内容

作物	作業内容	総件数 (件)	合計 (件)
水稻	耕耘	30	264
	代かき	28	
	田植え	57	
	防除	32	
	稲刈り	62	
	乾燥	55	
畑作物	耕耘	11	56
	播種	7	
	植え付け	10	
	施肥	8	
	防除	10	
	収穫	10	
果樹・茶	剪定	20	62
	施肥	11	
	防除	7	
	収穫	24	

※ 「総件数」は、複数回答によるものを合算した

有効回答数	89
有効回答率 (%)	100

「問2-」のまとめと考察

- ◎ 中山間直接支払制度の集落協定について、32.4%の代表者は、5年後には集落協定を締結していないだろうと回答した。その理由は、「集落の高齢化により、耕作が維持できない」が70.5%を占めた。
- ◎ 耕作放棄地に関する質問では、71.0%の集落代表者から、集落内に耕作放棄地があると回答があった。
そのうち、元の作物が果樹もしくは茶に占める割合は35.1%であった。
また、不在村地主に占める割合は33.8%であった。
- ◎ 農地の貸借についての質問では、現在、集落外からの貸借、いわゆる入り作があると回答は25.3%（95集落）であった。
また、その面積を合わせると61.9haで、1集落あたりでは0.65haの借り受けであった。
- ◎ 現在は集落外で暮らしているが、かつて集落で暮らしていた方のいわゆる通作は、28.2%（106集落）であった。
その耕作面積を合わせると、51.6haとなり、1集落あたり0.49haの農地を通作している。
- ◎ 集落外から作業受託（ファームサービス）に来ている集落の割合は23.7%（89集落）であった。
また、その作業受託面積を合わせると91.0haとなり、1集落あたり1.02haであった。
依頼している作業内容は、水稲作に関するものが264件と最も多く、続いて果樹・茶の62件、畑作物の56件であった。
- ◆ 集落内の方だけでは、農地の維持が非常に厳しくなっている状況が伺える。
貸借による入り作や、かつて集落で暮らしていた方の通作があるものの、その面積は少ない。また、作業委託も活用しているようだが、これも面積的には、ごく一部を担っているだけである。
中山間地域では基盤面や農作業面でのデメリットが大きく、貸借を含め、外部に農地の維持管理を託したくても、それに答えられる者がいないのが現状である。
以上より、中山間の農地を維持できる経営体の育成に取り組むと共に、中山間集落側も農地を借りてもらい易くする工夫（例えば、農地をある程度の面積でまとめた上で貸し付ける等）が必要である。

「問3-1」の設問とそのねらい

- ◆ 問3については、栽培品目、出荷先、農業用機械の利用状況、野生鳥獣被害等、集落の農業経営に関する設問としている。
- ◆ このセクションでは、中山間地域での営農について把握する。

問 3 - 1

あなたの集落の主な生産物は何ですか。
上位3つの品目とその作付面積を教えてください。

◇ 結果 ◇ 表22 中山間地域における生産物

分類	面積 (ha)	割合 (%)	備考 (品目・品種名)
水稲	726.5	49.1	コシヒカリ等
畑作物類	17.7	1.2	麦類、雑穀類、そば、葉たばこ、薬草
野菜類	237.0	16.0	エンドウ等の豆類、フキ等の山菜類、ホウレンソウ、ジャガイモ、ナス、イチゴ等
果樹類	356.3	24.1	ユズ等の香酸柑橘類、みかん類、キウイ、梅、柿、栗、銀杏、ぶどう、ブルーベリー、やまもも
花き ・花木類	67.7	4.6	いろどり、オモト、ケイトウ、シャクヤク、シキミ、ヒバ、バラ等
茶	75.6	5.1	やぶきた等
合計	1,480.8		

有効回答数	363
有効回答率 (%)	96.5

野菜類のうち、山菜類が占める割合は22.5%であった。
また果樹類のうち、すだち、ゆず、ゆこうの香酸柑橘類が占める割合は、55.3%であった。

問 3 - 2	「問3-1」の回答について、それぞれの品目は主にどちらに出荷していますか。
---------	---------------------------------------

◇ 結果 ◇ 表23 生産物の主な出荷先

出荷先等	割合 (%)
JAに出荷	48.5
産直に出荷	6.5
民間集荷	9.1
市場・小売りに直接	9.0
自家消費	26.9

有効回答数	363
有効回答率 (%)	96.5

問 3 - 3	あなたの集落でトラクターはどれくらいありますか。
---------	--------------------------

◇ 結果 ◇ 表24 中山間集落のトラクターの所有状況

状況区分	割合 (%)
農家のほぼ全ての戸が持っている	30.9
農家の半分くらいは持っている	19.4
専業農家しか持っていない	7.7
共同利用のものが1～2台しかない	4.8
トラクターは集落に全く無く、その代わりに耕耘機がある	30.1
トラクター、耕耘機ともに全くない	7.2
無回答	0.0

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

農業用機械の利用状況で、トラクターについては、30.9%の集落で「農家のほぼ全戸が持っている」と回答した。

また、トラクターではなく耕耘機を所有しているという集落も30.1%あった。

問 3 - 4	あなたの集落で田植機はどれくらいありますか。
----------------	-------------------------------

◇ 結果 ◇ 表25 中山間集落の田植機の所有状況

状況区分	割合 (%)
農家のほぼ全ての戸が持っている	18.1
農家の半分くらいは持っている	22.9
専業農家しか持っていない	14.1
共同利用のものが1～2台しかない	6.9
田植機は集落に全くない	31.9
無回答	6.1

有効回答数	353
有効回答率 (%)	93.9

問 3 - 5	あなたの集落でコンバインはどれくらいありますか。
----------------	---------------------------------

◇ 結果 ◇ 表26 中山間集落のコンバインの所有状況

状況区分	割合 (%)
農家のほぼ全ての戸が持っている	11.2
農家の半分くらいは持っている	22.6
専業農家しか持っていない	13.6
共同利用のものが1～2台しかない	3.7
コンバインは集落に全く無く、その代わりにバインダーがある	10.6
コンバイン、バインダーともに全くない	31.9
無回答	6.4

有効回答数	352
有効回答率 (%)	93.6

問 3 - 6	あなたの集落で米麦乾燥機はどれくらいありますか。
----------------	---------------------------------

◇ 結果 ◇ 表27 中山間集落の米麦乾燥機の所有状況

状況区分	割合 (%)
農家のほぼ全ての戸が持っている	9.8
農家の半分くらいは持っている	16.5
専業農家しか持っていない	13.8
共同利用のものが1～2台しかない	4.8
乾燥機は集落に全くない	49.5
無回答	5.6

有効回答数	355
有効回答率 (%)	94.4

問 3 - 7	あなたの集落で、共同利用している農業用機械はありますか。
----------------	-------------------------------------

◇ 結果 ◇ 表28 共同利用の農業用機械の有無

回答区分	回答数	割合 (%)
共同利用の機械がある	79	21.0
共同利用の機械はない	297	79.0
無回答	0	0
合計	376	

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

問 3 - 8

「問3-7」の回答が「ある」だった方に質問します。
共同利用している機械は何ですか。その機種と台数を教えてください。

◇ 結果 ◇ 表29 共同利用している農業用機械の機種と台数

機種	集落数	台数 (台)	共同利用機械を所 有する集落あたり の割合 (%)	総共同利用機械の 台数あたり割合 (%)
トラクター	25	42	31.6	14.5
耕耘機	15	53	19.0	18.3
田植機	16	21	20.3	7.3
コンバイン	16	22	20.3	7.6
バインダー	2	2	2.5	0.7
乾燥機	6	12	7.6	4.2
糶摺機	7	11	8.9	3.8
ハーベスター	4	5	5.1	1.7
動力噴霧器	7	8	8.9	2.8
刈払機	13	77	16.5	26.6
モノレール	3	11	3.8	3.8
茶用刈取機	4	4	5.1	1.4
堆肥散布機	2	2	2.5	0.7
水中ポンプ	2	6	2.5	2.1
用水ポンプ	2	2	2.5	0.7
小型バックホー	2	2	2.5	0.7
運搬車	1	1	1.3	0.3
そば用粉ひき機	1	1	1.3	0.3
果樹の皮むき機	1	1	1.3	0.3
チェーンソー	1	3	1.3	1.0
チップパー	2	2	2.5	0.7
雪かき機	1	1	1.3	0.3
合計 (延べ数)	133	289		

有効回答数	79
有効回答率 (%)	100

22機種の機械について共同利用しているとの回答があった。
集落あたりの割合では、トラクターを共同利用する集落が1位であるが、台数あたりでは、比較的小型である刈払機や耕耘機が多い。

問 3 - 9	あなたの集落で野生鳥獣による農業被害はありますか。
---------	---------------------------

◇ 結果 ◇ 表30 野生鳥獣による農業被害の有無

回答区分	回答数	割合 (%)
野生鳥獣による農業被害がある	364	96.8
野生鳥獣による農業被害はない	12	3.2
無回答	0	0
合計	376	

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

問 3 - 10	「問3-9」の回答が「ある」だった集落は、どのような鳥獣の被害がありますか。
----------	--

◇ 結果 ◇ 表31 獣類別の農業被害

獣類	被害がある集落数 (複数回答)	被害がある集落あたりの割合 (%)	指数 (点)
シカ	267	73.3	1,368
サル	269	73.9	1,291
イノシシ	343	94.2	1,734
タヌキ	194	53.3	545
ハクビシン	235	64.6	792
鳥類	276	75.8	917
その他	18	4.9	—

有効回答数	364
有効回答率 (%)	100

※「指数」について

この問では上表の獣類について、被害の有無とその順位を質問した。順位については、次のとおり加点をし、その合算を指数とした。数値が大きいほど被害要因として大きい。なお、その他については、指数化の対象としていない。

被害順位と加点 1位・・・6点 2位・・・5点 3位・・・4点
 4位・・・3点 5位・・・2点 6位・・・1点
 被害なし・・・0点

イノシシによる農業被害については、鳥獣害被害がある集落の94.2% (343集落)で被害が発生している。

「その他」については、野兔やモグラの被害があった。

問 3 - 11

野生鳥獣被害に対して、集落では何か対策をしていますか。

◇ 結果 ◇ 表32 鳥獣被害対策の有無

回答区分	回答数	割合 (%)
野生鳥獣による農業被害があり、対策をしている	351	93.4
野生鳥獣による農業被害はないが、対策をしている	3	0.8
野生鳥獣による農業被害があるが、対策をしていない	13	3.5
野生鳥獣による農業被害がなく、対策をしていない	9	2.4
合計	376	

表33 鳥獣被害対策の内容

対策の内容	対策をしている集落数 (複数回答)	対策をしている集落あたりの割合 (%)
電柵を張っている	193	54.5
トタンで田畑を囲っている	231	65.2
網をしている	288	81.5
わなを仕掛けている	133	37.6
花火などで威嚇する	181	51.1
その他	22	6.2
特に何もしていない	22	—

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

「その他」では、ワイヤーメッシュの設置が12事例あった。

問 3 - 12	「問3-11」の対策は、個人的な取り組みですか。 それとも集落での取り組みですか。
----------	--

◇ 結果 ◇ 表34 鳥獣被害対策の取組について

回答区分	回答数	鳥獣被害がある集落での割合 (%)
すべて個人的な取り組み	200	56.5
すべて集落ぐるみでの取り組み	21	5.9
個人的な取り組みと集落での取り組みが混在	133	37.6
合計	354	

有効回答数	354
有効回答率 (%)	100

「問3ー」のまとめと考察

- ◎ 中山間地域における主要な農作物は、面積で見ると、水稻、果樹類が多い結果となった。
果樹類のうち、香酸柑橘類が占める割合は55.3%と半分を超えている。
また、野菜類のうちタラの芽やフキ等山菜類が占める割合は22.5%であった。
- ◎ 農産物の出荷先としては、JAが48.5%と半分に近い割合であった。2位以降は、自家消費の26.9%、民間集荷の9.1%、市場・小売りに直接販売9.0%、産直に出荷6.5%であり、作物を作っても自身や親類で消費する割合が高かった。
- ◎ 農業用機械の所有および利用状況については、トラクター、田植機、コンバイン、米麦乾燥機を共同利用をしている割合は3.7%~6.9%であり、低い結果であった。
- ◎ 機種を問わない農業用機械の共同利用状況では、21.0%の集落で共同利用農機があると回答された。その内訳は、トラクターを共同利用している割合が最も高く、台数に占める機種の割合では刈払機、耕耘機が高かった。
- ◎ 野生鳥獣による被害については、96.8%の集落で「被害がある」との回答であった。獣類別では、イノシシの被害が最も多く、以降、シカ、サルと続いた。
その対策については、網の利用が最も多かった。被害があっても「特に何もしていない」集落も13集落あった。
なお、対策については、「すべて個人的な取り組み」が56.5%と半分を超えた。
- ◆ 主要な生産物では、水稻を挙げる集落が多かったが、田植機やコンバイン等稲作用農機の共同利用はあまり進んでいない状況であった。
中山間地域ならではの品目である山菜類の栽培については、野菜類のうちに占める割合は2割程度で、面積シェアとしてはそれほど大きいものではなかった。
鳥獣被害については、ほぼ全ての集落で被害があるものの、その対策については、個人としての対応が半分を超えており、集落ぐるみでの対策はあまり進んでいない状況であった。

以上より、現在の中山間での営農は比較的、個人完結型で営まれていることが推測された。
鳥獣被害や耕作放棄地の拡大が懸念され、担い手不足も深刻化する中、これまでの営農手法では、産業としての農業を維持することは非常に厳しい状況である。

「問4ー」の設問とそのねらい

- ◆ 問4については、集落営農のイメージ、推進の課題、講習会開催の必要性等、集落営農組織化の意識に関する設問で構成している。
- ◆ このセクションでは、中山間地域での集落営農の意識について把握する。

問 4 - 1 あなたは、「集落営農」をご存じですか。

◇ 結果 ◇ 表35 集落営農の認知

回答区分	回答数	割合 (%)
知っている	97	25.8
何となく知っている	106	28.2
「集落営農」という言葉は知っている	100	26.6
知らない	73	19.4
無回答	0	0
合計	376	

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

「知っている」「何となく知っている」「言葉は知っている」を合わせれば、80.6%となった。なお、「何となく知っている」と「言葉は知っている」を合わせれば、54.8%であった。

問 4 - 2

あなたの「集落営農」に関するイメージで、一番近いものはどれですか。

◇ 結果 ◇ 表36 集落営農のイメージ

回答区分	回答数	割合 (%)
出役などで集落ぐるみで営農を行う	109	29.0
農業用機械を共同利用する	22	5.9
農地を担い手農家に集積する	34	9.0
集落の農地や農業をどう守るかの約束事を決め、それを実行する	102	27.1
集落の農業に関するだけでなく、祭事等の年中行事や社会福祉的な事柄も含めた集落活動や集落機能の維持についての約束事を決め、それを実行する	92	24.5
無回答	17	4.5
合計	376	

有効回答数	359
有効回答率 (%)	95.5

「出役などで集落ぐるみで営農を行う」が29.0%で最も割合が高かったが、「集落の農地や農業をどう守るかの約束を決めそれを実行する」と「農業だけでなく祭事や社会福祉も含めた集落活動等を決め実行する」を合わせた結果は51.6%で半分を超えた。

問 4 - 3

あなたの集落では集落営農への取組が必要だと思いますか。

◇ 結果 ◇ 表37 集落営農の必要性

回答区分	回答数	割合 (%)
大変そう思う	52	13.8
どちらかといえばそう思う	155	41.3
あまりそうは思わない	90	23.9
そうは思わない	43	11.4
すでに取り組んでいる	19	5.1
無回答	17	4.5
合計	376	

有効回答数	359
有効回答率 (%)	95.5

「大変そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると55.1%となった。

問 4 - 4	あなたが集落営農に参加する場合、どのような不安がありますか。
---------	--------------------------------

◇ 結果 ◇ 表38 集落営農参加への不安要因

不安理由	回答数 (複数回答)	回答があった集落あたりの割合 (%)	指数 (点)
自分の農地が思い通り使えなくなるのではないか	202	62.7	827
自分の農業用機械や施設はどうなるのか	182	56.5	565
自分の希望通りに農作業が行えるか	218	67.7	975
個々の作業が雑にならないか	189	58.7	550
個々の収入が減るのではないか	192	59.6	496
集落営農組織の運営が大変なのではないか	272	84.5	1,394
その他	31	9.6	—

有効回答数	322
有効回答率 (%)	85.6

※「指数」について

この問では上表の不安理由について、その順位を質問した。
 順位については、次のとおり加点をし、その合算を指数とした。
 数値が大きいほど不安要因として大きい。
 なお、その他については、指数化の対象としていない。

不安理由	1位・・・6点	2位・・・5点	3位・・・4点
順位と加点	4位・・・3点	5位・・・2点	6位・・・1点
	選択なし・・・0点		

「その他」には「兼業農家ばかりなので、取り組みが難しい」「若い人がいないから」等の意見があった。

問 4 - 5	あなたの集落で集落営農を行おうとした場合、何が必要であると思いますか。
---------	-------------------------------------

◇ 結果 ◇ 表39 集落営農組織化に必要なもの

必要なもの	回答数 (複数回答)	回答があった集落あたりの割合 (%)	指数 (点)
集落内の理解	296	88.9	1,850
集落内のリーダー（まとめ役）	285	85.6	1,658
会計処理に詳しい人	230	69.1	751
農業用機械や施設	238	71.5	826
圃場や農道等の基盤整備	240	72.1	910
鳥獣被害対策	250	75.1	904
役場職員や農業普及指導員等 集落外部のリーダー	229	68.8	782
その他	15	4.5	—

有効回答数	333
有効回答率 (%)	88.6

※「指数」について

この問では上表の必要なものについて、その順位を質問した。
 順位については、次のとおり加点をし、その合算を指数とした。
 数値が大きいほど必要性が高い。
 なお、その他については、指数化の対象としていない。

必要なもの	1位・・・7点	2位・・・6点	3位・・・5点
の順位と加点	4位・・・4点	5位・・・3点	6位・・・2点
	7位・・・1点	選択なし・・・0点	

「その他」には「高齢化で営農の意欲がない」「若い作業員」等の意見があった。

問 4 - 6

役場や県が、集落営農に関する講習会をもっと開くべきだと思いますか。

◇ 結果 ◇ 表40 講習会の必要性

回答区分	回答数	割合 (%)
もっと講習会を開くべき	62	16.5
どちらかと言えば、講習会をもっと開くべき	135	35.9
講習会はあまり開かなくても良い	90	23.9
講習会は開かなくても良い	39	10.4
無回答	50	13.3
合計	376	

有効回答数	326
有効回答率 (%)	86.7

「もっと講習会を開くべき」「どちらかと言えば、講習会をもっと開くべき」を合わせると、52.4%となる。

問 4 - 7

今後、あなたの集落の農業はどのような方向に向かうべきだと思いますか。

◇ 結果 ◇ 表41 集落の方向性

向かう方向性	回答数	割合 (%)
集落で営農組合を設立し、共同作業や機械の共同利用をして、全員で集落全体の農業を行う	35	9.3
集落で営農組合を設立し、共同作業や機械の共同利用をして、全員で集落全体の転作部分のみを行う	10	2.7
集落で営農組合を設立し、そこが中心となってオペレーターが集落全体の農業を行う	14	3.7
集落で営農組合を設立し、そこが中心となってオペレーターが集落全体の転作のみを行う	4	1.1
集落内の数戸の担い手農家が集落全体の農業を行う	24	6.4
集落内の数戸の担い手農家が集落全体の転作部分のみを行う	8	2.1
農地集積や農地の維持など土地利用の約束事を集落で決め、営農は個別で行う	34	9.0
大規模農家や法人または農協などに集落全体の農業を任せる	16	4.3
個人個人で完結して農業を行う	44	11.7
すでに集落での営農は難しく、いかに集落を存続していくかが課題である	182	48.4
その他	5	1.3
無回答	0	0
合計	376	

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

その他には、「限界集落で農業を行えない日が近い」「ソーラー発電などの新しい産業を」等があった。

問 4 - 8

あなたの集落で、今後「集落営農」に取組みたいと思いますか。

◇ 結果 ◇ 表42 集落営農の取組み意欲

回答区分	回答数	割合 (%)
取組みたい	23	6.1
どちらかと言えば取組みたい	132	35.1
あまり取組みたくない	151	40.2
取組みたくない	61	16.2
すでに取り組んでいる	9	2.4
無回答	0	0
合計	376	

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

「取組みたい」と「どちらかと言えば取組みたい」を合わせれば41.2%となり、「あまり取組みたくない」と「取組みたくない」を合わせると、56.4%となる。

「問4-1」のまとめと考察

- ◎ 集落営農については、「何となく知っている」と「言葉は知っている」を合わせれば、54.8%となり、半数を超えた。言葉は聞いたことはあるが、具体的にはどうということか理解度が深まっていないことが伺えた。
- ◎ 集落営農と言えば、一般的に、1集落を1農場として考え、その集落員（組合員）の出役等で協同して営農を行うイメージが強い。しかし、このイメージは事例として稀であり、全国的に見てもこのような手法を用いた集落営農はわずかである。
さて、集落営農に関するイメージの設問では、「出役などで集落ぐるみで営農を行う」が29.0%と最も高かったが、「集落の農地や農業をどう守るかの約束を決めそれを実行する」と「農業だけでなく祭事や社会福祉も含めた集落活動等を決め実行する」を合わせた結果は51.6%と過半以上であった。
- ◆ 問4-1と合わせて考えると、理解度は深まっていないものの、集落営農については、集落の約束事を決め実行することであるとの見解が半数以上であることがわかった。また、また、集落営農とは、農業だけでなく社会活動全般に渡った活動をも含めることを印象として持っていることもわかった。
- ◎ 問4-3「あなたの集落で集落営農は必要か」の問については、「大変そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると55.0%となった。
- ◎ 問4-4「集落営農参加への不安」については、「集落営農組織の運営が大変なのではないか」が1位となった。2位は「自分の希望通りに農作業が行えるか」であり、最下位は「個々の収入が減るのではないか」であった。
自らの収入よりも、組織運営の不安や農作業等営農に関する不安が上位となった。
- ◎ 問4-5「集落営農を行う場合、何が必要か」については、1位が「集落内の理解」、2位「集落内のリーダー（まとめ役）」、3位「ほ場や農道等の基盤整備」となった。人材の育成・確保と共に、基盤整備も合わせて必要であることがわかった。
- ◎ 問4-7では「既に集落での営農は難しく、いかに集落を存続していくかが課題である」が約半数を占め、中山間地域の厳しい現状が改めて浮き彫りとなった。
- ◎ 「取り組みたい」と「どちらかといえば取り組みたい」を合わせれば41.2%となる。一方、「あまり取り組みたくない」と「取り組みたくない」を合わせれば56.4%であり、取り組みたくない意見が15.2ポイント上回った。
- ◆ 以上より、集落に問題があり、どうにかしたいと思いつつも、組織運営の不安やリーダーの不在等で二の足を踏んでいる状況が推測される。また、地域の厳しい現状を認識しつつもそれを活力として転嫁できない厳しい状況にあることがわかった。

「問5-1」の設問とそのねらい

- ◆ 問5については、祭事や共同活動の状況、UIターン移住者の状況の設問で構成している。
- ◆ また、行政に期待することや御意見等も伺った。

問 5 - 1

現在、あなたの集落での祭事や一斉清掃等の集落活動は、支障なく行われていますか。

◇ 結果 ◇ 表43 現在の集落活動について

回答区分	回答数	割合 (%)
全く支障なく行われている	56	14.9
それほど大きな支障はなく行われている	156	41.5
支障があるものの今は何とか行われている	161	42.8
集落活動は行われていない	3	0.8
無回答	0	0
合計	376	

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

「全く支障なく行われている」と「それほど大きな支障はなく行われている」を合わせると56.4%となる。

問 5 - 2	「問5-1」の回答が「支障があるものの今は何とか行われている」と「集落活動は行われていない」だった方に質問します。 集落活動に支障がある理由は何ですか。
---------	---

◇ 結果 ◇ 表44 集落活動に支障がある理由

支障理由	回答数 (複数回 答)	集落あたり の割合 (%)	指数 (点)
集落の高齢化	164	100	802
以前に比べ戸数が減ったから	137	83.5	519
集落活動に係る資金がないから	98	59.8	244
集落の世話人の負担が増しているから	109	66.5	323
集落の慣習や慣例を知る方がいなくなったから	83	50.6	153
その他	2	1.2	—

有効回答数	164
有効回答率 (%)	100

※「指数」について

この間では上表の理由について、その順位を質問した。
順位については、次のとおり加点をし、その合算を指数とした。
数値が大きいほど支障要因として大きい。
なお、その他については、指数化の対象としていない。

支障理由 1位・・・5点 2位・・・4点 3位・・・3点
順位と加点 4位・・・2点 5位・・・1点 選択なし・・・0点

「集落の高齢化」は全ての集落が理由として選択した。

問 5 - 3	「問5-1」の回答が「全く支障なく行われている」と「それほど大きな支障はなく行われている」だった方に質問します。 5年後でも支障のない状態が続いていると思いますか。
---------	---

◇ 結果 ◇ 表45 5年後の集落活動について

回答区分	回答数	割合 (%)
全く支障なく行われている	11	5.2
それほど大きな支障はなく行われている	79	37.3
支障があるものの何とか行われている	116	54.7
集落活動は行われていない可能性が高い	6	2.8
無回答	0	0
合計	212	

有効回答数	212
有効回答率 (%)	100

「全く支障なく行われている」と「それほど大きな支障はなく行われている」を合わせると42.4%となる。

一方、「支障があるものの何とか行われている」は54.7%と半分を超えた。

問 5 - 4	「問5-1」の回答が「全く支障なく行われている」と「それほど大きな支障はなく行われている」だった方に質問します。 10年後でも支障のない状態が続いていると思いますか。
---------	--

◇ 結果 ◇ 表46 10年後の集落活動について

回答区分	回答数	割合 (%)
全く支障なく行われている	2	0.9
それほど大きな支障はなく行われている	30	14.2
支障があるものの何とか行われている	117	55.2
集落活動は行われていない可能性が高い	51	24.1
無回答	12	5.7
合計	212	

有効回答数	200
有効回答率 (%)	94.3

「全く支障なく行われている」と「それほど大きな支障はなく行われている」を合わせると15.1%となる。
一方で、「集落活動は行われていない可能性が高い」は24.1%であった。

問 5 - 5	最近5年以内で集落に戻ってきた方(いわゆるUターン者)や、集落外から来て住んでいる方(いわゆるIターン者)はいますか。
---------	---

◇ 結果 ◇ 表47 直近5年間のU I ターン者の有無

回答区分	回答数	割合 (%)
UIターン者がいる	85	22.6
UIターン者はいない	268	71.3
無回答	23	6.1
合計	376	

有効回答数	353
有効回答率 (%)	93.9

直近の5年間にU I ターン者がいると回答があった集落は85集落であった。

問 5 - 6	「問5-5」の回答が「いる」だった方に質問します。 最近5年間で何人の方がUターンしましたか。
---------	--

◇ 結果 ◇ 表48 直近5年間のUIターン者数

区分	人数 (人)
Uターン者	88
Iターン者	114
合計	202

有効回答数	85
有効回答率 (%)	100

問 5 - 7	あなたの集落に集落外から移住者が来ることについてはどう思いますか。
---------	-----------------------------------

◇ 結果 ◇ 表49 移住者かあることについての印象

回答区分	回答数	割合 (%)
もっと移住してきてほしい	86	22.9
どちらかと言えば移住してきてほしい	210	55.9
あまり移住してこないでほしい	70	18.6
移住してこないでほしい	10	2.7
無回答	0	0
合計	376	

有効回答数	376
有効回答率 (%)	100

「もっと移住してきてほしい」「どちらかと言えば移住してきてほしい」を合わせると78.8%となる。

問 5 - 8	集落の活性化や維持について、役場や県等の行政に期待することはどのようなことですか。
---------	---

◇ 結果 ◇ 表50 行政への期待・意見①

キーワード	具体的な意見等の一例
耕作放棄地や空き家の活用	耕作放棄地や空き家を借りることに今以上にインセンティブを与えてほしい。
	耕作放棄地は一時的に行政が管理し、再生した上で、やる気のある方に貸し付けてほしい。
	農地が点々としていて管理が難しい。農業委員会の活動等により、農地の集積等を行って、作業しやすくしてほしい。
	農地が分散しているのを交換等により集積化し、効率的にするべきである。それには行政が関与するのが近道だと思う。
鳥獣被害対策	近年はイノシシ等が石積みなどを崩し、個人では修復出来ない。役場とか農協などが小型の機械を備え、リースして使用できるようにすれば良い。
	金網や電柵の導入に今まで以上の助成をしてほしい。
	野生鳥獣の被害を受け、生産・耕作意欲をなくしている。第一には、駆除を行い、獣の絶対量を減らす対策をとる事が大事である。
儲かる農業、儲かる農作物の導入	集落に対する援助と指導、基盤整備、集出荷対策。
	高齢者でも作業でき、面積あたりの単価が高い新作物の導入を検討してほしい。
	地域専門員（常駐）としての普及指導員の配置。
	小規模農業の工夫等についての講習会や研究会を実施してほしい。
	中山間地域にはその実情にあった農業用機械や農業用施設導入の助成事業を実施してもらいたい（例えば小型機械の導入等）。

(表51 行政への期待・意見② に続く)

問 5 - 8	集落の活性化や維持について、役場や県等の行政に期待することはどのようなことですか。
---------	---

◇ 結果 ◇ 表51 行政への期待・意見②

キーワード	具体的な意見等の一例
生活するうえでの 基盤整備	若い人は、農業は兼業でも集落に留まってくれれば良い。通勤しやすくなるよう、道路などの整備が必要。生活に不可欠な水（上水）の確保、水道等の整備が必要。
	道路整備、生活道路の維持管理を期待する。
次世代を担う若 者、人材の育成と 確保	若者が定住しないのではなくて、定住できない状況。農業でサラリーマン並の所得が得られるような対策を。
	中山間の農業をしっかりと見ていくことが、大事だと思う。今をどうにかしたいと思っている人（若者）は多い。それを見逃している。「里に帰り農業をしたい」「田舎に行き農業をしたい」と思ってもらえるような、地域作りをする事が過疎化にストップをかけるコツだと思う。
	中山間地で親と同居する、若い人には、税金面など、優遇策を考えてほしい。

表50および表51は、回答方法を自由記入としたため、意見として多かったものをキーワードとして整理した。

◇ 結果 ◇ 表52 10年後の集落の展望

キーワード	具体的な意見等の一例
農業で生活が出来るようになってほしい	集落の人々が農作物の価格の安定により農家が後継者が育つような環境になってほしい。
	小ロット自然食品型環境保全農村山地をめざしたい。
	集落営農の法人化が帰農し、高齢者UIターンの担い手も安心して農業ができ、雇用の場でもできて、一体感・家族的で相互に助け合える集落になっている。
	集落全体がまとまり、農産物を作り、産直市場を通し、地域特産物をふるさと宅急便などで（ホームページを通じて情報発信）地域出身者に発送、集落営農を目指す。
	集落で取れる産物に付加価値を付けて、地域の地場産業を育てていきたいと思う。
UIターン等で若者や担い手がいる集落	何ととっても、子供たちの声が聞こえて、20代、30代の若夫婦が生活して、田には稲穂が光り、ある程度の集落営農が行われ、多少の収入が有り、集落全体がなかよく話し合いが出来て、農村カフェなどが開業できていれば最高。
	集落の谷間に子供の声が聞こえる集落になってほしいと思う。
	県外の定年退職者で、農業に興味のある方の移住を求める。
	3年位前から県内外から若者たち40代か年2回集まって、これから先、集落をどう守って行くか話合っているようだ。指導、助成をお願いしたい。

(表53 10年後の集落の展望② に続く)

問 5 - 9

あなたの集落は10年後、どうなってほしいと思いますか。

◇ 結果 ◇ 表53 10年後の集落の展望②

キーワード	具体的な意見等の一例
現状維持を目指す	寂しいが、限界限界集落から消滅集落に近いかもしれない。しかし、がんばって、少しでも維持できるように努力する。
	現在の集落の最高齢者が変わらず元気で野良仕事してくれていたら最高。
	各家の後継ぎが戻って来て、家を守るだけでいいと思う。
	高齢化になるが、現在のように全員が農業を続けていて、日々が生き生きと楽しく生活出来る集落でありたい。

表52および表53は、回答方法を自由記入としたため、意見として多かったものをキーワードとして整理した。

「問5-」のまとめと考察

- ◎ 集落活動について、現在では「全く支障なく行われている」と「それほど大きな支障はなく行われている」を合わせると56.4%であるが、10年後の状況を問うと、その割合は16%までに落ち込む。また、10年後「集落活動は行われていない可能性が高い」との回答は25.5%であった。
- ◎ 直近の5年間にUIターン者がいるかとの質問では、22.3%（84集落）が「いる」と回答した。その人数はUIターン合わせると202名となった。
移住者があることについての印象は、「もっと移住してきてほしい」「どちらかと言えば移住してきてほしい」を合わせると78.8%となった。
- ◆ 以上より、高齢化等により、多くの集落が将来の集落活動の維持に不安を抱いている。
移住者があることについては、一定の理解があるようで、さらに積極的な移住希望者へのアピールと、受け入れ集落のマッチングが必要である。

なお、「行政に期待すること」「集落の10年後の展望」については、表43から表46に整理をしているとおりである。

総合考察

◆ 中山間集落へのさらなる対策は今すぐに

中山間集落再生の対策は、まさに待ったなしの状況であることが改めて確認された。現在の中山間集落を支える防波堤となっているのは、いわゆる団塊の世代であり、この世代がリタイヤすると、次の世代は極端に少ないため、集落機能の維持が一層厳しくなることが推測された。

◆ 将来の集落リーダーとなる人材の確保（移住者対策）

集落内を取りまとめるには、将来の担い手となる人材の確保が不可欠である。集落に問題があり、どうにかしたいと思いつつも、組織運営の不安やリーダーの不在等で二の足を踏んでいる状況、また、地域の厳しい現状を認識しつつもそれを活力として転嫁できない厳しい状況にある。

これを打破するのは、行政の支援はもとより、集落内の意見等を取りまとめるリーダーの存在が大きい。移住者があることには、一定の理解があるので、その方々に早期に地域に溶け込んでもらい、将来、集落を支えるリーダーとして活躍してもらえるようなシステム作りや支援も重要である。

◆ 対策は基幹産業である農業の再興が鍵

中山間集落再生の鍵は基幹産業である農業の再興である。今まで個人完結型で行われてきた営農手法では、様々な事由でその継続が厳しい状況であり、農業の維持や今後の発展に期待が持てない。

移住者や集落内外の担い手に農地の集積が図られるよう、集落内で一層の話し合いや合意形成が必要である。また同時に、集落活動等の社会活動全般に渡った集落内でのチェックが必要である。

◆ 将来は、子ども達の声が聞こえ、 高齢者がいきいきと農作業ができる集落へ (地域貢献型集落営農のシステム構築と導入)

「集落営農は必要か」の問に55.1%が「集落営農は必要だ」と答えた。他方、「集落営農に取り組みたいか」との問には「取り組みたい」「どちらかと言えば取り組みたい」を合わせて41.2%であった。両者には13.9ポイントの差がある。

この結果は、中山間集落の厳しい現状や、新しいことに取り組む不安を端的に表しているものである。

しかし、10年後の集落の展望を問うと、農業である程度の収入が得られ、若い移住者もあり、いきいきとした集落でありたいとの前向きな思いがある。

地域貢献型集落営農はそれを下支えする言わば、集落の約束事である。現状と将来展望とのギャップを埋めるべく、早期に本県にあったシステム構築と現地における活動を行わなければならない。

徳島県内における 中山間地域農業の実態アンケート

目的・趣旨

この調査は、中山間地域の「営農」と「集落機能の維持」にスポットをあてたアンケート調査です。実施主体は徳島県です。

主に、「中山間直接支払い協定締結組織」の代表者の皆さんを対象に行って

集計・分析結果により、統計調査では表れない、これからの中山間集落のあり方を探ります。

アンケート票の記入上の注意点

マジックペン等、裏写りする筆記用具は御遠慮ください。

なるべく濃い鉛筆やボールペン等で、はっきりと楷書体で御記入ください。

アンケート票の御返送について

アンケート票の御返送は、御記入いただいた、このアンケート票を同封の返信用封筒に入れ、平成24年1月27日(金)までにポストに投函してください。

御記入いただいた情報の取り扱いについて

このアンケート票に御記入いただいた個人情報や内容については、本アンケート調査の集計・分析に利用する以外は、その他の目的では一切利用しません。

担当・お問い合わせ先

このアンケートについてのお問い合わせは、次の連絡先までお願いいたします。

連絡先 徳島県 農林水産部 農村農地政策局 農地計画課
有効活用担当 担当者 南
電話 088-621-2389 ファクシミリ 088-621-2859
E-mail nouchikeikakuka@pref.tokushima.lg.jp
〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番(徳島県庁7階)

(電話は、土・日・祝日を除く平日の8時30分～18時15分の間のみ対応可能です)

※次ページからアンケートが始まります。御記入よろしくお願ひします。※

これよりアンケートが始まります。

このアンケート票に御記入いただいた内容は、個人が特定される形で公表されることは一切ありません。

また、このアンケートの回答内容によって、あなたやあなたの集落が不利となることも一切ありませんので、どうぞ御協力をお願いいたします。

アンケート票 記入者情報

まず最初に、あなたの御住所と御名前、年齢を御記入願います。

住所	〒 -		
氏名		年齢	歳

1- あなたの集落の「戸数や人」に関することについて教えてください。

問 1-1 あなたの集落の全戸数は何戸ですか。

	戸
--	---

問 1-2 あなたの集落の年齢構成を教えてください。

小学生以下	人	小学生	人	中学生	人	
-----		-----		-----		
中学卒業～19歳以下			人	20歳代		人
-----		-----		-----		
30歳代	人	40歳代	人	50歳代	人	
-----		-----		-----		
60歳代	人	70歳代	人	80歳以上	人	
-----		-----		-----		

問 1-3 あなたの集落の全戸中、農家は何戸ですか。

	戸
--	---

問 1-4 「問1-3」の回答のうち、農業だけで生計をたてている「専業農家」は何戸ですか。

	戸
--	---

問 1-5 「問1-3」の回答である「農家」の「主たる経営主」の年齢構成を教えてください。

<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: left; padding-left: 10px;">専業農家</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">20歳代</td> <td style="text-align: right;">人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">30歳代</td> <td style="text-align: right;">人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">40歳代</td> <td style="text-align: right;">人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">50歳代</td> <td style="text-align: right;">人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">60歳代</td> <td style="text-align: right;">人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">70歳代</td> <td style="text-align: right;">人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">80歳以上</td> <td style="text-align: right;">人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> </table>	専業農家		20歳代	人	-----		30歳代	人	-----		40歳代	人	-----		50歳代	人	-----		60歳代	人	-----		70歳代	人	-----		80歳以上	人	-----		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: left; padding-left: 10px;">兼業農家</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">20歳代</td> <td style="text-align: right;">人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">30歳代</td> <td style="text-align: right;">人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">40歳代</td> <td style="text-align: right;">人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">50歳代</td> <td style="text-align: right;">人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">60歳代</td> <td style="text-align: right;">人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">70歳代</td> <td style="text-align: right;">人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">80歳以上</td> <td style="text-align: right;">人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> </table>	兼業農家		20歳代	人	-----		30歳代	人	-----		40歳代	人	-----		50歳代	人	-----		60歳代	人	-----		70歳代	人	-----		80歳以上	人	-----	
専業農家																																																													
20歳代	人																																																												

30歳代	人																																																												

40歳代	人																																																												

50歳代	人																																																												

60歳代	人																																																												

70歳代	人																																																												

80歳以上	人																																																												

兼業農家																																																													
20歳代	人																																																												

30歳代	人																																																												

40歳代	人																																																												

50歳代	人																																																												

60歳代	人																																																												

70歳代	人																																																												

80歳以上	人																																																												

問 1-6 「問1-3」の回答のうち、跡継ぎが同居しているお宅は何戸ですか。

	戸
--	---

2- あなたの集落の「農地」に関することについて教えてください。

問 2-1 あなたの集落は今現在、中山間直接支払い協定を締結していますか。当てはまる方に○をしてください。

協定を締結している	協定を締結していない
-----------	------------

問 2-2 「問2-1」で「協定を締結している」と回答した方に質問します。5年後も協定を締結していると思いますか。当てはまる方に○をしてください。

協定を締結している	協定を締結していない
-----------	------------

問 2-3 「問2-2」で「協定を締結していない」と回答した方に質問します。5年後の協定を締結できないと思う主な理由は何ですか。最も当てはまるものに○をしてください。

	集落の高齢化により、耕作が維持できない。
	鳥獣被害により、営農が継続できない。
	集落の合意をまとめきれない。
	世話役の負担が大きい。

問 2-4 あなたの集落に1年以上耕作されていない、いわゆる「耕作放棄地」(1年以上収穫作業を行っていない「荒廃果樹園」や「茶園」も含まれます)はありますか。当てはまる方に○をしてください。

ある	ない
----	----

問 2-5 「問2-4」の回答が「ある」だった方に質問します。集落に耕作放棄地はどれくらいありますか。

町	反
---	---

問 2-6 「問2-5」の回答うち、荒廃果樹園・茶園はどれくらいありますか。また、その品目は何ですか。

町	反
---	---

品目名	
-----	--

問 2-7 「問2-5」の回答のうち、現在集落には居住していない方が所有する、いわゆる「不在村地主」による耕作放棄地はどれくらいありますか。

町	反
---	---

問 2-8 集落外から農地を借りて耕作に来ている人はいますか。
当てはまる方に○をしてください。

<input type="checkbox"/> いる	<input type="checkbox"/> いない
-----------------------------	------------------------------

問 2-9 「問2-8」の回答が「いる」だった方に質問します。
集落外からは何人の方がどのくらいの農地を耕作していますか。

人 が、あわせて 町 反 を耕作

問 2-10 現在は集落外に居住しているが、かつて集落で暮らしていた方で、耕作に来ている人はいますか。当てはまる方に○をしてください。

<input type="checkbox"/> いる	<input type="checkbox"/> いない
-----------------------------	------------------------------

問 2-11 「問2-10」の回答が「いる」だった方に質問します。
現在、かつて暮らしていた何人の方がどのくらいの農地を耕作していますか。

人 が、あわせて 町 反 を耕作

問 2-12 集落外から作業受託(ファームサービス)に来ている人はいますか。
当てはまる方に○をしてください。

<input type="checkbox"/> いる	<input type="checkbox"/> いない
-----------------------------	------------------------------

問 2-13 「問2-12」の回答が「いる」だった方に質問します。
集落外からは、何人の方がどのくらいの農地の作業を受託していますか。

人 が、あわせて 町 反 を作業受託している

問 2-14 「問2-12」の回答が「いる」だった方に質問します。作業受託内容は何ですか。次の該当するもの全てに○をつけてください。

水稻	畑作物	果樹・お茶
<input type="checkbox"/> 耕耘	<input type="checkbox"/> 耕耘	<input type="checkbox"/> 剪定
<input type="checkbox"/> しろかき	<input type="checkbox"/> 種まき	<input type="checkbox"/> 施肥
<input type="checkbox"/> 田植え	<input type="checkbox"/> 植え付け	<input type="checkbox"/> 防除
<input type="checkbox"/> 防除	<input type="checkbox"/> 施肥	<input type="checkbox"/> 収穫
<input type="checkbox"/> 稲刈り	<input type="checkbox"/> 防除	
<input type="checkbox"/> 乾燥	<input type="checkbox"/> 収穫	

3- あなたの集落の「農業」について教えてください。

問 3-1 あなたの集落の主な生産物は何ですか。
上位3つの品目とその作付面積を教えてください。

	品目名	面積
1位		町 反
2位		町 反
3位		町 反

問 3-2 「問3-1」の回答について、それぞれの品目は主にどちらに出荷していますか。それぞれ、一番多いと思われるものに○をしてください。

1位の品目	JAに出荷
	産直市に出荷
	民間集荷業者に出荷
	市場や小売り等の業者に直接持って行く
	自家消費する
2位の品目	JAに出荷
	産直市に出荷
	民間集荷業者に出荷
	市場や小売り等の業者に直接持って行く
	自家消費する
3位の品目	JAに出荷
	産直市に出荷
	民間集荷業者に出荷
	市場や小売り等の業者に直接持って行く
	自家消費する

問 3-3 あなたの集落でトラクターはどれくらいありますか。
次表より当てはまるものに○をつけてください。

農家のほぼ全ての戸が持っている
農家の半分くらいは持っている
専業農家しか持っていない
共同利用のものが1～2台しかない
トラクターは集落に全く無く、その代わりに耕耘機(テーラー)がある
トラクター、耕耘機ともに全くない

問 3-4 あなたの集落で田植機はどれくらいありますか。
次表より当てはまるものに○をつけてください。

農家のほぼ全ての戸が持っている
農家の半分くらいは持っている
専業農家しか持っていない
共同利用のものが1～2台しかない
田植機は集落に全くない

問 3-5 あなたの集落でコンバインはどれくらいありますか。
次表より当てはまるものに○をつけてください。

農家のほぼ全ての戸が持っている
農家の半分くらいは持っている
専業農家しか持っていない
共同利用のものが1～2台しかない
コンバインは集落に全く無く、その代わりにバインダーがある
コンバイン、バインダーともに全くない

問 3-6 あなたの集落で米麦乾燥機はどれくらいありますか。
次表より当てはまるものに○をつけてください。

農家のほぼ全ての戸が持っている
農家の半分くらいは持っている
専業農家しか持っていない
共同利用のものが1～2台しかない
乾燥機は集落に全くない

問 3-7 あなたの集落で、共同利用している農業用機械はありますか。
当てはまる方に○をしてください。

ある	ない
----	----

問 3-8 「問3-7」の回答が「ある」だった方に質問します。
共同利用している機械は何ですか。その機種と台数を教えてください。

機種	台数
(例) トラクター	1 台
	台
	台
	台
	台

問 3-9 あなたの集落で野生鳥獣による農業被害はありますか。
当てはまる方に○をしてください。

ある	ない
----	----

問 3-10 「問3-9」の回答が「ある」だった集落は、どのような鳥獣の被害がありますか。
次表にある獣類の被害が多い順に番号をつけてください。
なお、全く被害のない獣類は「なし」と書いてください。また、表にない獣類については「その他」欄にご記入ください。

被害順位	獣 類
	シ カ
	サ ル
	イノシシ
	タヌキ
	ハクビシン
	鳥 類
	その他① → 記入
	その他② → 記入

問 3-11 鳥獣被害に対して、集落では何か対策をしていますか。
 次表の当てはまるもの全てに○をつけてください。また、次表以外の対策を
 されていれば、「その他」欄にご記入ください。

	電柵を張っている
	トタンで田畑を囲っている
	網をしている
	わなを仕掛けている
	花火などで威嚇する
	特に何もしていない
	その他→記入

問 3-12 「問3-11」でご回答いただいた対策は、個人的な取り組みですか、それとも
 集落での取り組みですか。次表の当てはまるものに○をつけてください。

	すべて個人的な取り組み
	すべて集落ぐるみでの取り組み
	個人的な取り組みと集落での取り組みが混在

4- あなたの「集落営農」に対するお考えについて教えてください。

問 4-1 あなたは、「集落営農」をご存じですか。
次表の中で、当てはまるものに○をしてください。

	知っている
	何となく知っている
	「集落営農」という言葉は知っている
	知らない

問 4-2 あなたの「集落営農」に関するイメージで、一番近いものはどれですか。
次表の中で、最も近いものに○をしてください。

	出役などで集落ぐるみで営農を行う
	農業用機械を共同利用する
	農地を担い手農家に集積する
	集落の農地や農業をどう守るかの約束事を決め、それを実行する
	集落の農業に関するだけでなく、祭事等の年中行事や社会福祉的な事柄も含めた集落活動や集落機能の維持についての約束事を決め、それを実行する

問 4-3 あなたの集落では集落営農への取組が必要だと思いますか。
次表の中で、あなたの考えに最も近いものに○をしてください。

	大変そう思う
	どちらかと言うとそう思う
	あまりそうは思わない
	そうは思わない
	すでに取り組んでいる

問 4-4 あなたが集落営農に参加する場合、どのような不安がありますか。次表の中で、不安が強い順に番号をつけてください。なお、表にないことについては「その他」欄にご記入ください。

不安の 順位	不安に思うこと
	自分の農地が思い通り使えなくなるのではないか
	自分の農業用機械や施設はどうなるのか
	自分の希望通りに農作業が行えるか
	個々の作業が雑にならないか
	個々の収入が減るのではないか
	集落営農組織の運営が大変なのではないか
	その他 →記入

問 4-5 あなたの集落で集落営農を行おうとした場合、何が必要であると思いますか。次表の中で、必要だと思う順に番号をつけてください。なお、表にないことについては「その他」欄にご記入ください。

必要である 順位	必要なこと
	集落内の理解
	集落内のリーダー(まとめ役)
	会計処理に詳しい人
	農業用機械や施設
	圃場や農道等の基盤整備
	鳥獣被害対策
	役場職員や農業普及指導員等集落外部のリーダー
	その他 →記入

問 4-6 役場や県が、集落営農に関する講習会をもっと開くべきだと思いますか。次表の中で、あなたの考えに最も近いものに○をしてください。

	もっと講習会を開くべき
	どちらかと言えば、講習会をもっと開くべき
	講習会はあまり開かなくても良い
	講習会は開かなくても良い

問 4-7 今後、あなたの集落の農業はどのような方向に向かうべきだと思いますか。次表の中で、あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。なお、表にない場合は「その他」欄にご記入ください。

	集落で営農組合を設立し、共同作業や機械の共同利用をして、 <u>全員で集落全体の農業を行う</u>
	集落で営農組合を設立し、共同作業や機械の共同利用をして、 <u>全員で集落全体の転作部分のみを行う</u>
	集落で営農組合を設立し、そこが中心となって <u>オペレーターが集落全体の農業を行う</u>
	集落で営農組合を設立し、そこが中心となって <u>オペレーターが集落全体の転作のみを行う</u>
	集落内の数戸の <u>担い手農家が集落全体の農業を行う</u>
	集落内の数戸の <u>担い手農家が集落全体の転作部分のみを行う</u>
	農地集積や農地の維持など <u>土地利用の約束事を集落で決め、営農は個別で行う</u>
	大規模農家や法人または農協などに <u>集落全体の農業を任せる</u>
	個人個人で完結して農業を行う
	すでに集落での営農は難しく、いかに集落を存続していくかが課題である
	その他 →記入

問 4-8 あなたの集落で、今後「集落営農」に取り組みたいと思いますか。
次表の中で、あなたの考えに最も近いものに○をしてください。

	取り組みたい
	どちらかと言えば取り組みたい
	あまり取り組みたくない
	取り組みたくない
	すでに取り組んでいる

5- あなたの集落の「現状」と「これから」について教えてください。

問 5-1 現在、あなたの集落での祭事や一斉清掃等の集落活動は、支障なく行われていますか。次表の中で、当てはまるものに○をつけてください。

	全く支障なく行われている
	それほど大きな支障はなく行われている
	支障があるものの今は何とか行われている
	集落活動は行われていない

問 5-2 「問5-1」の回答が「支障があるものの今は何とか行われている」と「集落活動は行われていない」だった方に質問します。
集落活動に支障がある理由は何ですか。次表の中で、理由が大きい順に番号をつけてください。なお、表にない理由については「その他」にご記入ください。

順位	集落活動に支障がある理由
	集落の高齢化
	以前に比べ戸数が減ったから
	集落活動に係る資金がないから
	集落の世話人の負担が増しているから
	集落の慣習や慣例を知る方がいなくなったから
	その他 →記入

問 5-3 「問5-1」の回答が「全く支障なく行われている」と「それほど大きな支障はなく行われている」だった方に質問します。
5年後でも支障のない状態が続いていると思いますか。次表の中で、あなたの考えに最も近いものに○をしてください。

	全く支障なく行われている
	それほど大きな支障はなく行われている
	支障があるものの何とか行われている
	集落活動は行われていない可能性が高い

問 5-4 「問5-1」の回答が「全く支障なく行われている」と「それほど大きな支障は
なく行われている」だった方に質問します。
10年後でも支障のない状態が続いていると思いますか。次表の中で、あな
たの考えに最も近いものに○をしてください。

	全く支障なく行われている
	それほど大きな支障はなく行われている
	支障があるものの何とか行われている
	集落活動は行われていない可能性が高い

問 5-5 最近5年以内で集落に戻ってきた方(いわゆるUターン者)や、集落外から
来て住んでいる方(いわゆるターン者)はいますか。当てはまる方に○をし
てください。

	いる		いない
--	----	--	-----

問 5-6 「問5-5」の回答が「いる」だった方に質問します。
最近5年間で何人の方がUターンしましたか。

Uターン者		人
Iターン者		人

問 5-7 あなたの集落に集落外から移住者が来ることについてはどう思いますか。
次表の中で、あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。

	もっと移住してきてほしい
	どちらかと言えば移住してきてほしい
	あまり移住してこないでほしい
	移住してこないでほしい

問 5-8 集落の活性化や維持について、役場や県等の行政に期待することはどのようなことですか。次に自由にご記入ください。

問 5-9 あなたの集落は10年後、どうなつてほしいと思いますか。次に自由にご記入ください。

質問は以上です。御協力ありがとうございました。
このアンケート票は、同封の返信用封筒に入れて、御返送ください。
お手間となりますが、何卒よろしくお願いいたします。
なお、このアンケート調査の結果は、集計・分析ができたい、御送付いたします。